

第三十回東京支部展開催
支部長 大石亨

第三十回新日美東京支部展を五月一日〜六日文京シビックセンターで開催しました。これまでの会場、池袋の芸術劇場が改修のため、今回は文京シビックセンターで開催されることになりました。

出展者数十六名、出展作品数三十八点（六号〜二十号）、油彩、パステル、水彩、皮工芸の力作が寄せられ、充分見るに値する作品が並び会場を芸術的ムードに盛り上げることが出来ました。

当初、初めての会場での程度、観衆を集める事が出来るか、少々不安でしたが、さて開場すると連日百名前後の入りがあり、計約六百名の観客があり、まずは成功でした。

池袋と違って、観客層が比較的高く中年の方が多かったのはこの特徴の一つ、二十六階展望室からの眺めは天下一品です。交通の便の良さは最上、只惜しむらくは庁舎がお休み中のこと、節電のためロビー、廊下の暗かったことなど・・・ともあれまずまずは成功！

ではみなさん、来るべき次回の展覧会を指して、「オノレの作品」づくりにお互い努めましょう。本当に有り難うございました

第三十四回埼玉西支部展
実行役員 若槻浩志

第三十四回新日美埼玉西支部展を川越市立美術館で五月十日〜十五日に開催いたしました。コンセプトは「地道な努力」支部として日頃の地道な活動を知って頂き、月一回の人物を中心とした勉強会と画評会や写生会などの活動を評価頂き更にスキルアップを目標にしました。会員も意欲的で出品者も多く過去に無い出品点数でした。展示作品の一点一点を良く見て頂く為入口に見やすく水彩画を展示し見慣れたところで油彩の大作をじっくりと見て



入り口はソフトな水彩作品を、この奥に油絵の大作が並んでいる。

頂けるよう形を取り好評でした。その他に支部の活動紹介コーナーも作り地域のコミュニケーションを大切にしました。次回も支部展を続けて会員のスキルアップを目標に努力して行きます。最後に本部役員の方々に始め会員の方々の御来場を頂き、厚くお礼申し上げます。

第十回新日美広島支部展
支部長 前原専一



去る四月六日、福山市絵画・工芸の殿堂天満屋八階ギャラリーで新日美広島支部第十回展を開催しました。

作品は、高度なもの揃いで見る人は、作品から離れたいように見入っていた。山陽新聞も大々的な扱いで、大いなるアピールと賛辞してくれました。

埼玉東支部展 支部長 北條三郎

今年の支部展は、五月二十七日〜三十一日迄春日部商工振興センターギャラリーにて開催を致しました。

折しも台風二号の影響で三日半雨に遭られたが、四百二十一名の来訪を頂き盛況の内に終了することが出来ました。

出品者十三名、SM〜六十号までの四十二点の力作揃いの展示となった。たいへんまとまった支部とはなっているがどの支部もそうであるのか？長期の高齢化に伴い現状維持が精一杯で、今回は会員募集の為、市の公民館二十カ所に二十五枚づつ案内状の配布、各新聞社への発送、会場に新日美の全国公募ポスターの貼り付け等行った結果、数名の反応があり、丁寧に上野の森三十五回展案内説明等を行い、絵画は二十五号より二点出品可能、出品料八千円も他会と比べ安く、良心的な会である事など説明、公募展より支部展へと順序は逆になるがおそらく何名かの増員があると思われまます。それと東日本大震災につき会場に義援金のペットボトルを設置、二万七千七百二十円もの貴重なお金が集まり読売新聞社を通じ寄託した。後日、新聞には新日本美術協会埼玉東支部とあり何より支部全員の方でありお礼申しあげます。

来年の支部展の場所は未定である。会期中に県会議員さんが見えなくなり春日部駅西口に県営の美術館が九月に完成するのは是非利用して下さいとのこと、どこでやるにしてもその費用が問題であつと四〜五名は増員したいと思つているが、退会者もありなかなか難しい問題である。

支部発足当時は、三十名を越える大所帯であつたがこれ三十年、どうやらこの辺が正念場であり新しき風を取り入れて支部の展覧会を休むことなく引き続き開催し存続するため、支部員一同努力精進して行く所存であります。

「次回予定」

当日7時の天気予報で降水確率50%を超える場合実施中止にします。

「日比谷公園」 2011-7-6(水)
日比谷交差点に近い心字池の西側 10時集合

「白金自然教育園」 2011-8-26(金)
現地正門内 10時集合(正門内の待合室でも可)

「谷中夕焼け段々」 2011-9-29(木)
現地 段段上 10時集合

「駒込 六義園」 2011-10-21(金)
現地 東南入り口門前 10時集合

スケッチの実施報告と次回予定 事業部 一柳 幸

「佃嶋 風薫る」 2011-5-10(火)

午後からは雨、とのことだが11時現在は所々に青空が見えていた。佃島近くに高層ビルが建って昔の雰囲気は少なくなりました。それでも、「舟舳い 佃小橋に 風薫る」といった佃島らしい情景もあるし、細い路地裏のお地藏様にも懐かしさや親しさを感じるひとときでありました。

「芝公園増上寺」 2011-6-8(水)

五百羅漢を100幅の絵に収めた狩野一信が最近注目されるようになったせい、これを所蔵している増上寺は本日も客が多い。「梅雨冷えに 香煙低し 観世音」というわけで観音様と本堂を描くことが出来たのは幸せだった。